

古楽器オーケストラの最高峰による 至高のバツハ

ラ・プティット・バンド

La Petite Bande

音楽監督:シギスヴァルト・クイケン

Sigiswald Kuijken, Direction



J.S.バツハ:管弦楽組曲全曲演奏会

管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV1066

Orchestral Suite No.1 in C major, BWV1066

ブランデンブルク協奏曲 第5番 ニ長調 BWV1050

Brandenburg Concerto No.5 in D major, BWV1050

管弦楽組曲 第3番 ニ長調 BWV1068

Orchestral Suite No.3 in D major, BWV1068

管弦楽組曲 第2番 ロ短調 BWV1067

Orchestral Suite No.2 in b minor, BWV1067

管弦楽組曲 第4番 ニ長調 BWV1069

Orchestral Suite No.4 in D major, BWV1069

◎全席指定: S ¥4,000 / A ¥3,000

学生 ¥2,000(大阪アーティスト協会のみ取り扱い/当日指定*)

*開演1時間前より座席券と引換えの上、ご入場下さい。

未就学児の入場はご遠慮ください。

2014年6月2日(月) 19時開演(18時開場)
ザ・シンフォニーホール

主催:カメラータ・トウキョウ / ザ・シンフォニーホール
協力:公益財団法人フランダースセンター
マネジメント:大阪アーティスト協会

レオンハルト、ブリュッヘン、アーノンクール、ビルスマ達と古楽界を常にリードしてきた
巨匠シギスヴァルト・クイケンがJ.S.バツハの真髄に迫る!!

大好評につき
急遽追加公演決定!
ザ・シンフォニーホール
だからできるこの価格



J.S. Bach

La Petite Bande
Sigiswald Kuijken

●お問合せ:
大阪アーティスト協会 050-5510-9645

●プレイガイド:
大阪アーティスト協会 050-5510-9645
ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:228-120)
ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード:57741)

J.S. Bach

La Petite Bande

Sigiswald Kuijken

ラ・プチット・バンド

La Petite Bande

1972年S.クイケンとG.レオンハルトにより結成されたバロック・オーケストラ。その名称と構成は、ルイ14世の宮廷におけるリュリのオーケストラにちなんでいる。

レコード会社のドイツ・ハルモニア・ムンディが録音する、グスタフ・レオンハルト指揮のリュリの「町人貴族」のために、会社の提案で組織される。アンサンブルの名称とメンバーの数は、ルイ14世の宮廷でのリュリ自身のオーケストラを規範としている。楽団の目的は、古楽器(作曲家当時のオリジナル楽器またはそのコピー)や正統的(オーセンティック)な演奏習慣、オリジナルな演奏技法を用いて、音楽を正統的な形で復活すること、歴史的に忠実な響きと、無趣味だったり形式的ではない音楽を実現することにある。

録音が大成功だったためにオーケストラは定期的にコンサートや音楽祭に招かれるようになり、結局、恒常的な団体として活動することになる。結成以来、レオンハルトとS.クイケンが指揮を分け合ってきたが、S.クイケンが常任指揮者を務めている。今日ではそのレパートリーも、もはや当初のフランス・バロック音楽に留まらず、コレリやヴィヴァルディなどのイタリヤ・バロック、バッハやヘンデルのドイツ盛期バロック、さらにハイドンやモーツァルトといったウィーン古典派にまでおよび、国際的にその演奏は高い評価を得ている。1993年に初来日、ハイドンの天地創造で日本のファンにその実力を披露、以後定期的に来日し、歴史を誇るバロック・オーケストラのパイオニアとして高い水準の演奏で毎回聴衆を魅了している。

ヨーロッパ各地の主要な音楽祭、コンサートホールにも常に登場しており、その自然で美しい演奏は現在増えてきているオリジナル楽器のオーケストラの最高峰と称されている。今回はナチュラル・トランペットのJ.F.マドゥーフの他、フルート・トラヴェルソのB.クイケン等、管の名手を揃え、バッハの真髄に迫る。

シギスヴァルト・クイケン

Sigiswald Kuijken

1944年ブリュッセル近郊生まれ。64年にブリュッセルの音楽院を卒業。若い頃から、兄ヴィーラントとともに古楽に親しみ、独学で17～18世紀の演奏技術と演奏習慣を徹底して身につけた。これを契機に1969年、あごで楽器を支えず自由に肩に持たせかける奏法をはじめ、これはヴァイオリン音楽へのアプローチに決定的な影響を及ぼし、70年代初めから多くの奏者たちによって続々と採用されることになった。64年から72年までの間、アラリウス・アンサンブルの一員として活動し、その後も兄弟であるヴィーラントとバルトルド、グスタフ・レオンハルト、ロベール・コーネン、アンナー・ビルスマ、フランス・ブリュッヘン、ルネ・ヤコプスと個性的な室内楽プロジェクトを立ち上げている。72年ラ・プチット・バンド結成。シギスヴァルトは恒久的なリーダーとして精力的な活動を続けている。86年クイケン弦楽四重奏団結成。98年以來、しばしば「モダン」の交響楽団を指揮し、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンなどのロマン派のレパートリーにも取り組んでいる。2004年シギスヴァルトの研究により復元された「ヴィオロンチェロ・ダ・スバラ」でバハ時代のチェロ・パートを演奏し注目を集める。71年から96年までハーグ音楽院、同時に93年から2009年はブリュッセルの王立音楽院で教鞭をとっている。その他、ロンドンのロイヤル・カレッジ、シエナのキジアーナ音楽院、ジュネーブ音楽院、ライプツィヒ音楽大学等で客員教授として教えている。

2007年2月にルーヴェン・カトリック大学より名誉博士号を授与、2009年2月にはフランドル政府より「生涯功労賞」が授与された。

メンバー

| | | |
|---|---|---|
| Violin I Sigiswald Kuijken Sara Kuijken | Flute Barthold Kuijken | Trumpets Jean-Francois Madeuf Jérôme Princé Graham Nicholson |
| Violin II Barbara Konrad Ann Cnop | Oboe Vinciane Baudhuin Emiliano Rodolfi Mathieu Loux | Timpani Koen Plaetinck |
| Viola Marleen Thiers | Bassoon Rainer Johannsen | Harpisichord Benjamin Alard |
| Basse de violon Marian Minne Ronan Kernoa | | |
| Violoncello da Spalla Sigiswald Kuijken | | |



ラ・プチット・バンド & シギスヴァルト・クイケン

ACCENT

『管組』を再録音!

本当の音を追求するクイケンのこだわりが結実した1枚!



J.S. バッハ： 管弦楽組曲(全曲)

ハレトルド・クイケン(トラヴェルソ)
録音:2012年9月29日~10月1日:
ベルギー、シント・トルイデン、
ヘギンホフ教会
ACC 24279

★古楽界の巨匠 S.クイケン率いるラ・プチット・バンドによるバッハの管弦楽組曲。彼らは1981年に録音しており、31年ぶりの再録音ということで、その間の絶え間ない研究や技術の向上が結実したものとなっています。そして通常2枚組で販売されることの多い作品ですが、クイケンならではの快速テンポで1枚に収め、爽快で生き生きとした演奏を聴かせてくれます。

S.クイケンの職人技が魅せる、

ヴィオロンチェロ・ダ・スバラによる無伴奏チェロ組曲!



J.S. バッハ： 無伴奏チェロ組曲(全曲)

録音:2007年(デジタル)
ACC 24196

★ヴィオロンチェロ・ダ・スバラによる無伴奏チェロ組曲を S.クイケンが録音。「肩のチェロ」と呼ばれるこの楽器は、ヴァイオリンやヴィオラと同じ構えで演奏する小型チェロ。この楽器はドミトリー・パディアロフによって2004年製作完成、その直後からクイケンがステージで演奏していました。様々な記録を元に復元されたスバラの、新鮮な音の響き、新しい効果、滋味深い、味わいのあるクイケンの演奏は必聴です。

純正な響きを追求した新名盤の登場!



J.S. バッハ： ブランデンブルク協奏曲(全曲)

録音:2009年10月19-23日
ベルギー、ギャラクシー・スタジオ
KKC-5138/9(2SACD Hybrid)
日本語解説付

★バロック音楽界では革命的な影響を及ぼしたヴィオロンチェロ・ダ・スバラを用いた録音。歴史的研究に基づきバロック時代の管弦楽曲は「1パート1人」で演奏されていたと考えられており、この演奏もそのような編成を取っています。古楽の先駆者たちが数々の録音を行っていますが、このアルバムはそれらの演奏に一石を投じるものとなりました。